

文部科学省

「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」

麦の郷

ゆめ・やりたいことと実現センター



社会福祉法人 一麦会

麦の郷

ゆめ・やりたいこと実現センター

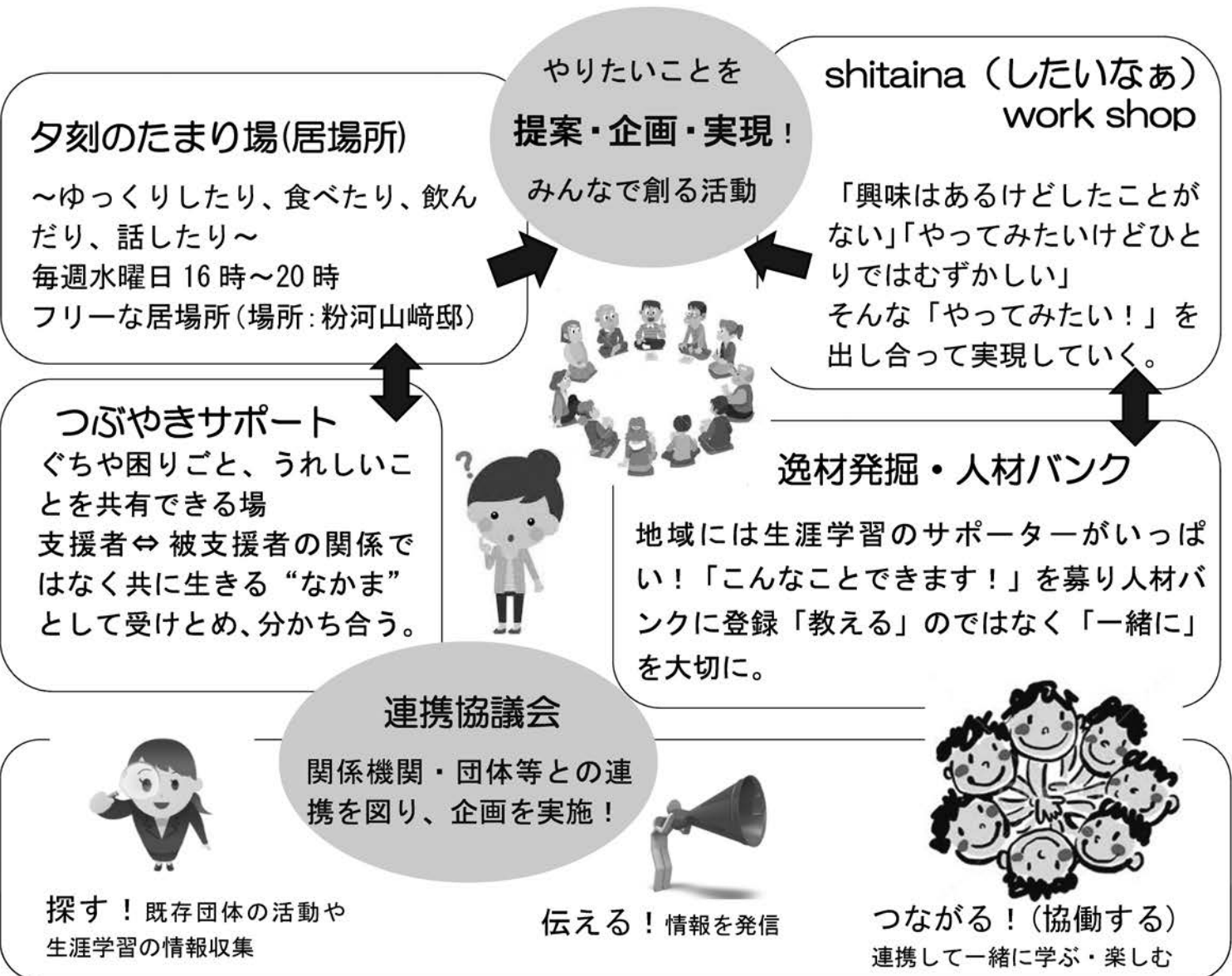
人は生涯にわたって学習を続け発達する存在です。

障害があっても誰もが健康で文化的で豊かな生活をおくることができる（憲法第 25 条：生存権）そして学ぶことで幸せを追求すること（憲法第 13 条：幸福追求権）は私たちの権利です。

安心して地域で生きる（衣・食・住・働が保障されている安心）

安心して地域で活きる（学びや活動・役割が保障される安心）

そんな私たち・仲間たちの「ゆめ」や「やりたいこと」を実現させるセンターです！



2018年『ゆめ・やりたいこと実現センター』での研究成果

文責 生涯学習コーディネーター 野中 康寛
藤本 綾子

研究効果 1 <居場所から生涯学習の場へ>

障害者の生涯学習の取り組みを進める上で、対象となる障害者がどのような形で生涯学習の機会にアクセスできるかが1つ目のポイントだと考えられる。

『ゆめ・やりたいこと実現センター』では、夕刻のたまり場を毎週水曜日に開催し、集える場（居場所）を作った。夕刻のたまり場の開設当初は、仕事（一般企業、作業所等）が終わってから行き場のなかった当事者が集える場というニーズに答えた場であった。

しかし、今回の研究事業によって生涯学習コーディネーターが常駐する事で、単なる居場所（たまり場）ではなく、「ここに来れば何かに取り組むことができる場」という生涯学習機能が加えられた拠点となった。そして、拠点施設が常設であるということが重要だということが確認できた。

研究効果 2 <生涯学習における主体形成>

生涯学習は、自らの意思で学びたいことを選択し行うことができることが重要であるが、障害があることで学びが受け身になりがちな当事者が多い。

コーディネーターはメンバーたちの自己決定に基づく意思決定を保障、尊重し様々なプログラムを開発した。そのことによって学びたいという欲求が生まれ、学びを主体的に行うことができた。

研究効果 3<夕刻のたまり場での飲酒についての議論>

一般就労を行うメンバーが「自分はお酒を飲める」という事と「仕事終わりに一杯やりたい」との思いで、買って来た缶酎ハイを夕刻のたまり場で飲み出した。それを見たメンバーは「お酒を飲んでいいの？」とコーディネーターに相談した。そこでコーディネーターは「たまり場に参加するメンバーでそれを話し合えばいい」と答え、参加者みんなでたまり場での飲酒について検討をおこなった。「福祉施設だからお酒はいけない」「居場所なのだからいいのではないか」「飲んでもいいが、お酒をあげたり勧めたりしてはいけない」など様々な意見が出され、最終的には飲酒はOK、ただ、お酒を勧めたりおごるのもいけない、当然のことながら公共交通機関と徒歩で帰ることが確認された。

このエピソードで重要な点は、自分たちの居場所のルールを作ることにより受け身で与えられる居場所ではなく、自らが主体的に作る居場所ということに変容した点である。

研究効果 4 <関係機関、団体の意識変化>

余暇や生涯学習を豊かにすることで、仕事に対しての意識や取り組み方が変化してくることが見受けられた。

企業・事業所・作業所や関係機関の職員に対し、夕刻のたまり場や様々な講座で生き生きしている障害当事者の姿を伝える事で生涯学習の重要性が示された。また、実際に関わる障害者本人が自らの活動

の様子を伝えることで、関係団体、職員の生涯学習への意識改革ができた。さらに、対等な関係に関わることで、つぶやきのような相談内容を丁寧に拾い上げ、相談支援事業所や就労継続支援事業所、就業生活・支援センター等の関係機関と連絡調整を行い日々の困りごとの解決に糸口になった。

研究効果 5<マジック講座で主人公になった自分>

Aさんは知的障害があり、コミュニケーションが苦手で自分から話しかけることはほとんどない。

紀の川市職員でマジシャンの一面をもつ方にマジック講座を開講していただいた。実際に目の前でクローズアップマジックを中心に見せてもらい、その中のひとつを種明かししてもらって、参加メンバーそれぞれが練習を行う。講座の最後に講師から「練習成果をみんなの前で発表しよう」という提案に、少しモジモジしているAさんの姿を見て、コーディネーターが「Aさんやってみる？」と聞くと予想に反してAさんがみんなの前に出てくる。見事にマジックを披露したAさんは少し得意げだった。その後のたまり場でもいくつかのマジックをみんなに披露するようになり、それまでは自らの言葉で語らなかつたAさんが「この前の講座で風船を飲み込むマジックをしていたけど、あれはどうやっているのかな」と話してくれた。内面を豊かにかにし、多くのやりたかつた経験をする中で、内在していた自ら聞きたい・言いたい・学びたいという思いが溢れて言葉になったと思われる。Aさんの母親からは、そんな彼の姿を見て「親の知らない間に成長している」と語った。

研究効果 6<コーディネーターの役割>

コーディネーターは社会福祉士、PSW、相談支援従事者、教師、指導員、支援員という肩書きではない。

『ゆめ・やりたいこと実現センター』では、メンバーの主体形成から生まれる様々な学びを重視している。それは、「支援／被支援」の関係性ではなくメンバーと対等な関係性の中で、ともに創り上げ、ともに楽しむことを行うことで、次はもっとこんなことを学びたい、学んでいいのだという意欲が生まれた。



『ゆめ・やりたいこと実現センター』設立シンポジウム

ねらい：文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」を社会福祉法人一麦会が受託し、『ゆめ・やりたいこと実現センター』として障害のある人の生涯学習に取り組む上で、地域の生涯学習関係並びに障害福祉関係のみなさんに、本事業について理解をしていただく機会を設ける。

成果：2018年9月26日開催

参加者 54名（当事者1名、家族4名、生涯学習団体関係11名、学校関係8名、地域の人5名、行政関係4名、事業所関係11名、相談支援関係7名、大学関係3名）

案内は行政関係・学校関係・事業所・障害福祉関係約93か所に送付。併せて県庁、紀の川市役所、岩出市役所の生涯学習課を訪問して概要を説明した。当日は54名の参加があり、参加できなかった近隣事業所には後日訪問し、事業概要の説明とシンポジウムの報告を行った。これらの取り組みをとおり、関係者への「理解促進」の大きな契機となった。

麦の郷は、『ゆめ・やりたいこと実現センター』を2018年8月よりスタートし、9月26日に設立シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムで、文部科学省障害者学習支援推進室長の高見暁子さんに事業説明等をしていただく中で、“支援する・される”という関係ではなく“一緒に”という姿勢が大事であることや、障害のある人の思いを汲みながら生涯学習と福祉の融合ができれば…と話されました。また、障害者の豊かな青年期を考える会の松下喜美代さんと麦の郷の田中秀樹理事長からは、今までの活動や今後への期待が語られ、和歌山大学名誉教授の堀内秀雄さんは、まとめの中で福祉は教育の母であり教育と福祉は助け合う必要があると話されました。このシンポジウムで、福祉と教育の縦割りではなく願いやニーズをもとに活動していくことが何より重要であることを再確認しました。

また、フロアからは「1+1=2ではなく、3にも5にもなる。」「小さな物語をたくさん紡いでいくと、それが豊かさにつながっていく。」という発言もありました。障害のある人の生涯学習や余暇活動は、今までも地域や麦の郷でそれぞれに行われてきました。今後もその活動をみんなで大切に育てながら、今までつながっていなかったところとも連携し、さらに広げていけたらと思っています。

10月からは『夕刻のたまり場』を開設し、作業所などでの仕事の後にゆっくりできる場を作るとともに、障害のある人のニーズをもとに様々な講座を企画しています。これからの活動を障害のある人を真ん中に、多くの人たちと創っていきえることを楽しみにしています。そして、障害のある人だけでなく、まわりの多くの人たちの『ゆめ・やりたいこと』も一緒に実現していける場になることを願っています。

生涯学習コーディネーター 藤本 綾子



やりたいこと講座一覧

ねらい：障害のある人が、地域での生涯学習の機会は少ないという現状がある。ましてや「主体的な学び」を実現する機会はさらに少ないと言える。『やりたいこと講座』では、本人の「こんなことしたい」という願いや希望を大切に、仲間やボランティアスタッフ・地域の協力者がともに取り組み、主体的で学びの喜びを実感できる講座を企画・実施する。それらの取り組みをとおり本事業への理解者・協力者を拡充することをめざす。

成果：のべ参加人数 638名 会場：紀の川市 22回 和歌山市 9回 金剛山 1回

- ① 今年度は 32 講座を企画・実施し、のべ 638 名の人に参加した。障害のある人たちの意見や希望をもとに「体力・健康づくり、防災、趣味・教養、音楽、文化芸術など」多彩なテーマによる講座が身近な場所で実現できたことは、当地域では画期的な取り組みである。
- ② 講座の企画・実施をとおして、地域で活動する様々な「特技」を持つ人材確保につながった。

講座名	日時	主催・協働	会場	人数
青年講座（食事について） 講師：紀の川市保健師・管理栄養士	2018.9.17（月） 16:00～	実現センター なまかの会	紀の川市	30名
青年講座（防災グッズづくり） 講師：紀の川市地域おこし協力隊	2018.10.21（日） 16:00～	実現センター なまかの会	紀の川市	24名
書道でアート（はがきサイズ）美園 講師：岩崎碧洞さん	2018.10.27（土） 13:30～	すばらしき仲間たち 実現センター	和歌山市	21名
青年講座（ゆる体操） 講師：奥村明春さん	2018.11.11（日） 16:00～	実現センター なまかの会	紀の川市	24名
金剛山登山&BBQ 講師：大田昌彦さん	2018.11.17（土） 8:30～	実現センター、SO、 伊都橋本青年学級	金剛山	25名
ちぎり絵講座 講師：梅本陽子さん	2018.11.29（木） 10:00～	実現センター	紀の川市	18名
新聞紙アート 講師：溝端秀章さん	2018.12.1（土） 10:00～	共助まちづくり協会 実現センター	和歌山市	11名
フルーツクリスマスリースづくり 講師：紀の川市地域おこし協力隊	2018.12.2（日） 10:00～	実現センター 地域おこし協力隊	紀の川市	12名
ヨガでこころもからだも気持ちよく 講師：山本まり子さん	2018.12.4（火） 18:00～	実現センター つれもて	和歌山市	29名
フラワーアレンジ 講師：仁井村和子さん	2018.12.15（土） 13:30～	共助のまちづくり協会 実現センター	和歌山市	12名
映画『バケツと僕！』粉河 講師：中橋真紀人さん	2018.12.15（土） 13:30～	映像文化研究所 実現センター	紀の川市	33名
映画『真白の恋』『バケツと僕！』美園 講師：中橋真紀人さん	2018.12.16（日） 10:00～13:30～	映像文化研究所 実現センター	和歌山市	19名
宮西 Dr.とマヤ文明のなぞを探る 講師：宮西照夫さん	2018.12.21（金） 18:00～19:30	実現センター	紀の川市	14名

障害者の生涯学習について 講師：小畑耕作さん小林正尚さん利用者さん	2019.1.12（土） 13:30～	シャイン 実現センター	紀の川市	25名
書道でアート 紀の川 講師：岩崎碧洞さん	2019.1.17（木） 13:30～	実現センター、共助のまちづくり 協会、紀の川・岩出支援センター	紀の川市	17名
カラオケ教室でみんなと歌おう 講師：津嶋佳奈さん	2019.1.19（土） 14:00～	那賀・伊都橋本青年学級、 実現センター	紀の川市	27名
桃源郷マラソン・ランニング・クリニック 講師：中村正男さん	2019.1.20（日） 9:00～	実現センター、SO 地域おこし協力隊	紀の川市	17名
音楽で学ぼう中国の文化 講師：朋友 小薺さん&佐古さん	2019.1.30（水） 18:00～	共助のまちづくり協会 実現センター	紀の川市	21名
書道でアート 講師：岩崎碧洞さん	2019.2.2（土） 13:30～	すばらしき仲間たち 実現センター	和歌山市	31名
絵手紙を楽しもう 講師：名倉くみ子さん	2019.2.6（水） 18:00～	地域おこし協力隊 実現センター	紀の川市	17名
音楽で学ぼう中国の文化 講師：朋友 小薺さん&佐古さん	2019.2.9（土） 13:30～	共助のまちづくり協会 実現センター	和歌山市	22名
ヨガでこころもからだも気持ちよく 講師：山本まりこさん	2019.2.17（日） 16:00～	実現センター	紀の川市	16名
マジック講座 講師：瀧本尋紀さん	2019.2.20（水） 18:30～	実現センター	紀の川市	18名
桃源郷マラソン・ランニング・クリニック 講師：中村正男さん	2019.2.24（日） 9:00～	SO、実現センター 地域おこし協力隊	紀の川市	22名
ちぎり絵講座 講師：家族会会員	2019.2.28（木） 10:00～	実現センター	紀の川市	19名
トークと絵本のつどい 講師：子安るいさん	2019.3.2（土） 14:00～	共助のまちづくり協会 連携協議会、実現センター	和歌山市	31名
ロケットストーブを作ろう 講師：神徳政幸さん	2019.3.3（日） 10:30～	実現センター	紀の川市	14名
考古学から見える紀州の歴史 講師：北野隆亮さん	2019.3.6（水） 18:00～	共助のまちづくり協会 実現センター	紀の川市	16名
ポリ袋クッキング 講師：紙谷伸子さん	2019.3.13（水） 17:00～	地域おこし協力隊 実現センター	紀の川市	16名
桃源郷マラソン・ランニング・クリニック 講師：中村正男さん	2019.3.17（日） 9:00～	SO、実現センター 地域おこし協力隊	紀の川市	19名
俳句に挑戦 講師：島 楽猫さん	2019.3.27（水） 18:00～	共助まちづくり協会 実現センター	紀の川市	11名
マカロニあーと 講師：島 久美子さん	2019.3.31（日） 14:00～	共助のまちづくり協会 実現センター	和歌山市	7名

(実現センター=ゆめ・やりたいこと実現センター、SO=スペシャルオリンピックス日本・和歌山、地域おこし協力隊=紀の川市地域おこし協力隊、紀の川・岩出支援センター=麦の郷紀の川生活支援センター、岩出障害児者相談・支援センター、なまかの会=障がい者の豊かな青年期を考える会)

(参加者の声)

- ・みんな二胡を触って弾かせてもらいました。先生が「(弾いてもらい) 二胡が喜んでいる」と言ってくれたのがうれしかったです。
- ・ヨガを始める時は横を向いていた人も、知らないうちにみんなと一緒にし始めていました。疲れているのでからだだけでなく気持ちも楽になりました。
- ・自分がやりたかったことを「したい！」って言ったら講座をすることになって、みんなですべてできてうれしかったです。

(家族の声)

- ・講座への参加で、家族や友だち同士でもできないものをみんなと一緒にできることが親としてうれしいし助かっています。
- ・日曜日は、基本ずっと家族としか過ごしていないのに、日曜日にヨガ講座など開催してくれて、行く場所ができてよかったです。

(講座協力団体のみなさんの声)

- ・『耕すと芽が出る』継続的な活動が大切だと思います。
- ・青年期を考える講座では、参加者も自分の思いを話してくれて、みなさんに思いが伝わったのではないかと思います。
- ・絵手紙もマジックも、みんなで教え合ってみんな一緒にできたことはすごくよかったです。
- ・マラソンランニングクリニックは障害のある人もない人もみんな一緒に取り組みました。気心が知れてきて、いい空気になってきました。みんながいてくれるので走れるし充実感があるという感想が届いています。
- ・書道もみんな認め合って書けました。のびのび書いて文化祭で展示発表ができたのがよかったです。「青年学級は生涯学習の場」という前川先生の言葉を実感しています。
- ・学びと気づきは日々の生活や人生にとって、残るものとなるにつくづく思います。
- ・トークと絵本のつどいを担当しましたが、講師も楽しみにしてくれていたし、自分自身も関わることができて楽しかったです。



夕刻のたまり場

ねらい：障害のある人は、作業所等の仕事終わりに立ち寄って仲間とゆっくりできる居場所は皆無といっても過言ではない。「就労の場」や「生活の場」を超えて、日常的に「仲間と交流しともに学び合う場」を確保することで、就労や生活を支え、人生の日々をゆたかにすることをめざす。

成果：10月から3月末までに24回開所。のべ利用人数256名。(平均10.7名)

この居場所で仲間たちと過ごしていろいろな話をし、安心してほっとできる場をつくることができた。ほとんどの参加者が作業所での就労や一般就労の場からの帰りに参加し定着率も高い中で、仲間や多様な人たちとの交流が実現している。また、安心してなんでも話せる雰囲気の中で「学びたいテーマ」への要望も積極的に出し合える状況が生まれている。

毎週水曜日 16:00~20:00 まで、山崎邸にて『夕刻のたまり場』を開設。

作業所等の仕事終わりの人や、夕方からのほうが外出しやすいという人が集まっています。海南市や和歌山市、橋本市からも来所。しゃべったりボードゲームをしたり、希望者は100円ずつ出し合って夕食づくりをしてみんなで食べて…とゆったりほっこりした時間を過ごしています。

(参加者の声)

- ・居場所があって、みんなに会えて、みんなでご飯を食べられて、ひとり暮らしにとってはめっちゃうれしい。
- ・あの場所に行ったらだれかいるし、そこに行けば遊べるし、話せるのがいいです。
- ・ひとりで食べるのではなく、大家族で夕食をとっているような感じがしてうれしいです。
- ・みんなと話して、コミュニケーションがとれるし、仕事とか、年齢とか違う人たちと会えるのもいいです。
- ・週2~3回あればいいと思います。
- ・交友関係の偏りが避けられる感じがします。
- ・月1回ほどみんなでお花見とか花火とか外出したいです。
- ・夕食は、100円だと量が少ない時があります。
- ・夕食のお金が毎回200円とかになると交通費と合わせるとしんどいので100円がいいです。
- ・お酒を持ってきた人がいたので「お酒、たまり場に持って来ていいん？」って、(スタッフに)聞いたら、「みんなでお話し合おう」ということになりました。話し合っ、自分で飲むものは買って飲んでいいということになったけど、お酒を飲んだら絶対に自転車にも乗ったらダメということも話し合いました。みんなが決めたのがよかったです。

(家族の声)

- ・精神的にしんどく不安定で難しい時期があったが、たまり場に参加させてもらうようになって、情緒が安定してきたように思います。

- ・作業所に通所し始めてから、作業所以外の居場所がなかったけど、居場所ができて楽しそうで、家族としてもありがたいです。
- ・いろいろな人とつながりができたこともうれしいようです。
- ・たまり場に行く日・行かない日を自分で選んで行っています。親としては、「選ぶ」本人の事を担当者が褒めてくれることがうれしいです。

(福祉関係者の声)

- ・作業所とかとは違うゆっくりした時間があるって、みんなすごく楽しそうだしくつろいでいる姿を見ると、そんな場所があちこちにできたらいいと思います。
- ・見学に来たら、すごく居心地がよくて自分もまた来たいと思いました。



つながれ！広がれ！学びの場 ～待っていたよ 私たちの出番と実現～

活動報告&トークリレー

2019年5月27日、和歌山大学名誉教授の堀内秀雄さんと和歌山大学教授の山崎由可里さんをコメンテーターとしてお迎えし、障害のある人たち・家族・行政関係・学校関係・講座協力団体・福祉事業所関係・地域の応援団など38名のみなさんの参加で『活動報告&トークリレー』を開催。3分程度の持ち時間で『ゆめ・やりたいこと実現センター』についての思いや参加しての感想、提言など約20名の方々に語っていただきました。

(障害のある人たちの声)

- ・一人っ子なので家にいてもすることがあまりありません。たまり場は家族のようだし、みんなで食べられることもいいです。グループで遊べるし、知り合いがいっぱいできました。
- ・二胡を触らせてもらえたのがうれしかったです。
- ・たまり場にお酒を持ってきた人がいた時に、みんなで話し合っって自分が飲むものを持って来てもいいとなりました。でも、人にはあげないことと、飲んだら自転車にも乗ってはいけないことなども話し合いました。
- ・家に帰るとひとりでゲームをしていることが多く、アウトプットできる場がなくて孤独でした。たまり場に来ると、情報が入り学ぶことができるし、職場では障害の事を言えないというのはあるあるネタだと思います。でも、自分のことを言うのが好きなので、たまり場で自分の事を聞いてもらいうれしかったです。
- ・以前は平日より土日が楽しかったけど、最近土日は退屈で楽しくなくなっていたけど、今は水曜日が楽しみになっています。講師になって、話もしたいと思っています。
- ・いつもは夕食代として100円集めているけど、忘年会で鍋パーティをした時は200円集めて豪華に鍋パーティができてよかったです。

(家族の声)

- ・たまり場でみんなに会うことが楽しそうで、遠いのに参加しています。他の活動と重なった日は、選んで来ていることもいいと思います。
- ・専攻科の学びを経験した人がたまり場に参加する事が多いように感じますが、楽しみ方を知っているのではないかと思います。
- ・10代後半からの人格形成は大切だと思います。上杉文代先生著『杏の木の下で 障害者と歩いた50年』の中から「社会的自立を支えるものは単に職業の技術だけではない。生活を豊かにする人間の器をつくることである...と今教えられている。」という言葉と重なります。
- ・遠いのに休まず来ています。講座で教えてもらったマジックを家では見せてくれないのに、今日はみんなの前でマジックをさせてもらいうれしかったです。最初は顔が下向いて不安そうだったが、だんだん上を向きうれしそうにしている姿を見せてもらい、知らない間に成長しているのだと感じました。

(講座協力団体のみなさんの声)

- ・マラソンランニングクリニックの3回連続講座に取り組んでいるうちに、障害のある人ない人の垣根がなくなったような気がしました。障害のある人とともに取り組むことで、障害への理解も広がったように思います。
- ・教育の中で「～なければならない」ということを教えられてきて、なかなか自由な発想で書けなかった人が、徐々に自分の感覚で自由に書けるようになってきました。
- ・いろいろな講座を一緒に作りました。二胡の講座で「キラキラ輝く瞳とまなざしに感動した」と講師の方が言ってくださいました。これからもみんなと楽しい取り組みができればいいなと思っています。
- ・日本中に広報して、だれでも来ることができるようになったらもっといいと思います。

(学校関係のみなさんの声)

- ・自分ですることが大切で、自分たちで考え、企画することが発達につながると感じました。
- ・同窓会活動は先生主体になりがちですが、生徒主体になる場に変えていきたいと思っています。この会に参加し、同窓会でもっと積極的に講座の紹介をして、活動を広めていきたいと思いました。

(連携協議会委員のみなさんより)

- ・「今までの自分は生かされてきた。今は活かされている」と言った人がいました。衣食住・労働の保障の憲法 25 条と幸福追求権（やりたい願いを追及する）の 13 条の両方を守ることが大切です。
- ・講座は、教えるのではなく一緒に学び合えるものなので、講師も一緒に楽しんでもらいたいです。
- ・イギリスで知的障害のある人たちの支援をしていたので、この取り組みもサポートしたいと思って関わっています。夕刻のたまり場はとても楽しい居場所です。

(福祉事業所のみなさんの声)

- ・事業所での余暇活動はどうしても「こういうことをしますので、どうですか？」となってしまいます。実現センターの活動を見ていて、やりたいと思うことをみんなですることはいいいことだと思います。夕刻のたまり場に行かせてもらおうと、みんないきいきしています。
- ・就労トレーニングをしていて、生活のことばかりになっていることが気になり、社会資源について利用者にどう伝えるかが課題でした。また、利用者のみなさんの土日の過ごし方について気になっていたこともあり、実現センターから届く案内を、事業所で掲示しているうちに、参加してくれるようになってきました。一人ひとりに合った働き方が実現できればいいと思っています。
- ・いろいろなことに声かけをしてもなかなか参加しなかった人に、たまり場に行くように誘って利用するようになりました。自己決定し、人にも誘うようになり、自分の気持ちを伝えることができるようになってきています。心の発達で、自信がついたようです。
- ・自立訓練事業所シャインも「あんなこと、こんなことしたい！」を実現する広がりをもつ取り組みをして器づくりをしています。
- ・神戸大学の院生より　～報告会を終えて～

今、思い返してみると、麦の郷と出会ったのは粉河高校の KOKÔ 塾学びの郷の取り組みでした。高校生たちも地域活動の拠点にしているこの山崎邸の雰囲気にも自分も惹かれて、そこから麦の郷の人たちとも仲良くなっていきました。そんな山崎邸で、夕刻に溜まって、そこから何かが生まれているなんて... いいなあって思います。もっと距離が近かったらなっていう一心です。

私は今、神戸のあーちという区民ホールの3階の場所で、雰囲気は違いますが、いろんな人たちが遊んだり、ぶつかったり、失敗したり、笑ったり、ゆっくりそこにいたり、そんな場の中でゆっくりと育

っています。あーちでは、障害のあるなしでなく、ともに地域に生きる人、一人一人が社会に働きかける市民であることを実感します。

当たり前かもしれませんが、人間は距離を取って生きています。今日のように輪の中に入っていくことを難しく思う人も多いと思います。私自身もそうですが、与えられた目的や、枠の中に閉じ込められて、過剰に距離を取らされてきた若者のひとりです。器作りっておっしゃった人がいました。器を育むのは、人との関係なのかなと思います。それは、物理的な関係だけでなく、心理的なものも含めてです。溜まること、自分を表現すること、一緒になんかやってみること、そういった経験の中で、人との距離、関係に怯えていた自分がほぐされていく。一緒になんかやってくれるんじゃないかっていう信頼や希望、期待が湧き出てくる。それは私自身も同じです。障害のあるないに関わらず、ひとりの人として、市民として、山崎邸もあーちでもそうですけど、豊かな表現の中で立ち現れてくる「人」に応答する中でその器が育まれているなあと実感します。

今後とも、取り組みが素敵なものとなる事、豊かな表現と関係、エピソードが紡がれていくことを心より願っております。



コメンテーターからのご意見・ご提案

和歌山大学名誉教授 堀内秀雄

- ・今、福祉と教育の接続と連携の質が問われている時代です。「福祉は教育の母である」との言葉があるように、すべての人間が幸せに生きるために生涯学習が必要なのです。
- ・生涯学習は、相互に学びあい教え合う「共同学習」論が基本原理とされています。
- ・多様な個性を持つ学ぶ人こそ主役であり、講座・事業等の企画運営のプロセスから当事者主権の考え方を徹底することが、様々な活動を楽しく元気にする秘訣だと考えます。
- ・企画・運営に当事者が参画し、情報共有を確認しながら協働して活動することはとても大事です。障がいのない人もある人も「誰一人取り残さない」理念こそ生涯学習でしょう。
- ・生涯学習は、ユネスコの「学習：秘められた宝」という文書の中で「知ることを学ぶ」、「することを学ぶ」、「共に生きることを学ぶ」、「人間として生きることを学ぶ」を4本柱にされています。
- ・本日の豊かな意見表明や感想を、きちんと整理して到達度と今後の課題などをまとめ、フィードバックしておいてください。
その際に、当事者・家族・サポーター・支援学校の先生、市民団体等の、多彩な生の声や貴重なエピソードを言語化して全国の実践と相互に受発信しましょう。
- ・地元の自治体や教育委員会、社会教育課、社会福祉協議会への働きかけもまだまだ可能だと思います。小中高の学校教育、大学との連携、NPO、企業など地域社会資源との接続・連帯の領域も広がりつつあります。
- ・これらの指針を総括した文部科学省や有識者会議の報告書の内容を省察することは、本事業を大きな視野から再確認しうる営みです。
要約すれば、①「当事者ニーズをふまえた学びに関する相談業務」、②「地方公共団体との協力・連携」、③「職業訓練と教育は生涯学習に大きな意味を持つこと」、④「支援教育や社会教育の人材等、幅広い人脈をつないでいく」、⑤「基盤の整理やしきみづくりについても事業計画に落とし込む」などが特徴です。
今年度の足跡を豊かに総括して、次年度以降のステップアップを期待するとともに、心より楽しみにしております。



和歌山大学教授 山崎由可里

- ・講師が「また来たい」「来てよかった」「楽しめた」と感じたということは、講座自体が講師と参加者相互に（一緒に）学びあいの経験になっていたということで、よいことだと思います。
- ・しかし、この取り組みを知らない人がたくさんいます。もっと発信していく事が大切です。
- ・この活動を通して、いろいろな可能性が広がっていることが感じられてうれしいです。
- ・夕刻のたまり場は心許せる大切な居場所ですね。改めて、「何をしたい？」と本人の声を聞くことが大切だと思いました。
- ・人間は、「やってみる」「挑戦する」ことで変わることができるもの。まずは興味を持つことが大事です。
- ・学校は人生の土台づくりの場であり、考える力をつけるかけがえのない場です。
- ・学校卒業後、どこにいてもいつでも学ぶ機会を得られることは重要なことで、地域に居場所があることは大事なことです。今後もこの事業がぜひ継続してほしいと思っています。
- ・県の生涯学習課から、市町村の生涯学習担当者にこの事業に関する研修や情報提供がなされています。今後、市町村でも積極的に障害のある人の生涯学習支援をすすめていくよう、私たちからも一層働きかけをしていきたいと思っています。



連携協議会

生涯学習の活動をされている人など 17 名（当事者 2 名を含む）で構成され、今年度は 4 回開催。講座を企画したり、今後の活動や事業内容について話し合ったり、各団体の取り組み等の交流も図っています。様々な企画を『ゆめ・やりたいこと実現センター』ですべて行うわけではなく、各団体のみなさんとともに取り組むことを大切にしています。

第 1 回連携協議会 2018 年 9 月 5 日 9 名出席

- 議題
1. 文部科学省『学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業』について
 2. 麦の郷『ゆめ・やりたいこと実現センター』について
 3. それぞれの団体の活動紹介

第 2 回連携協議会 2018 年 11 月 13 日 11 名出席

- 議題
1. 講座開催状況について
 2. 夕刻のたまり場について
 3. 講座等の発信方法について

第 3 回連携協議会 2019 年 1 月 8 日 11 名出席

- 議題
1. ゆめ・やりたいこと実現センターとの関わりやそれぞれの活動について
 2. 講座の周知について
 3. 講座開催状況について
 4. 夕刻のたまり場の様子について
 5. 今年度のまとめについて
 6. 活動報告トークセッションについて

第 4 回連携協議会 2019 年 2 月 26 日 11 名出席

- 議題
1. ゆめ・やりたいこと実現センターとの関わりや取り組んだ講座について
 2. 講座開催状況について
 3. 夕刻のたまり場の様子について
 4. 活動報告トークセッションについて
 5. 来年度にむけて
 6. この事業に関する件について



連携協議会委員のみなさんから

『ゆめ・やりたいこと実現センター』の感想

障がい者の豊かな青年期を考える会（なまかの会） 松下 隆志

ぼくは、連携協議会委員です。会議のときに参加して「なまか」の活動について話したり、自分のやりたいことを言ったりします。知ってる人がたくさんいるので、話しやすいです。水曜日の「夕刻のたまり場」に行きます。仕事がおわってから粉河駅で電車をおりて行きます。水曜日はしごとが早くおわるので、一番に着きます。みんなで話をしたり、食事をつくって食べます。たのしいです。「なまか」の友だちもきてるので野球や旅行の話をしてもらいます。最近の講座でよかったのは、二胡と和歌山城のはなしです。音楽が好きなのでそばで二胡の演奏を聞いたり、二胡にさわらせてもらってよかったです。和歌山城はむかしに大奥があったそうです。聞いてびっくりしました。マジックは見るのは楽しかったけど、やるのはむずかしかったです。水曜日に他にやりたいことがあるときは「夕刻のたまり場」に行きません。一人で岩出まで電車で行ってミレニアシティやコンビニに行きます。両方できるので満足です。

夢の受け皿

一般社団法人七色社 草下 敦司

ひきこもっていた頃、カードゲームやボードゲームで遊ぶことに憧れをいただいていた。どちらかというど影響の受けやすい方で、囲碁が流行れば手を出し、カードゲームが流行れば自分でも漫画の登場人物たちのようにカードを駆使したいと夢想します。そんなんですから、漫画を読むに飽き足らず、実際に通販でカードを購入したりしましたが、やはり対戦相手が居ないとすぐにモチベーションが下がってしまいました。ソロゲームがルールに組み込まれたボードゲームはありますが、やっぱり対人戦をしないと満たされません。独りでカードをもてあそんでも自己満足にすら至らなかったのです。そう言った悶々とした思いは、ひきこもりから抜け出すまで続きます。ゆめ・やりたいこと実現センター。名前からして素敵な響きです。もしあの頃にそのような場があったとしたら、自分の願いは本当に叶っていたかもしれません。障害者に向けられた、集い、学び、活かされる場は、僕を含めた活動に制限のある方たちにとって福音となり得るでしょう。独りは孤独です。

たとえ自分の障害を理解してくれている人が身近に居たとしても、本当の意味で満たされることはない。

当事者同士だからこそ、心を満たしてくれるものもあるのです。

広い意味での学習……生涯学習とは知識欲だけを潤すものでなく、心の隙間を埋めてくれるものでもあるのかもしれませんが。

それが興味のあることならなおさらです。

満たされたい時に満たされるということはとても幸福なのです。

そう言った欲求の受け皿となる場が、これからも続いて欲しいと思います。

カラオケで交流しよう

那賀青年学級 世儀 景子

H30年1月19日(土)に「ゆめ・やりたいこと実現センター」の講座「カラオケ教室でみんなと歌おう」を行った。

那賀青年学級の人気活動「カラオケ」は、毎年粉河にあるビルの5階のスナックを貸し切って行われる。お店のオーナーは青年学級の仲間の仕事先の同僚で、毎回歓待して下さる居心地の良い空間のお店である。

今回はいつものカラオケより楽しみを加えようと話し合いを進めた。そして①他の青年学級の人も誘いたい②上手に歌えるように教えてもらいたい③歌を聞くだけの人もいるので、ゲームをしたいなど、なかなか良い意見が出た。さっそく①は他の青年学級へ連絡し、ビラ作り、②は「ゆめ・やりたいこと実現センター」に相談し、講座として講師を迎えることにし、③はビンゴゲームをしようと準備はどんどん進んだ。

当日は14:00～17:00までの予定だったが、13:00から自由に歌っていいとのお店の計らいで、大勢の仲間が早くから詰めかけ楽しんでいた。27名の参加で店内は超満員状態で熱気がムンムン。そんな中、講師の津嶋佳奈先生は、スタッフにはないほのかな女性の香りを漂わせ、一人ずつの歌を聞いては、優しく分かりやすく指導し、美しい声で3曲も歌って下さり、仲間はずっと。日常を忘れて聞き入った。他の青年学級からも4名の参加があり、臆せずどんどんステージに上がって自慢ののどを披露してくれた。ビンゴゲームも大いに盛り上がり、「またやりたい!」「もっと友達を連れて来るわ」「今度いつ?」口々に言って別れを惜しんだ。

青年学級は気を張らず、素の自分を出し受け止められるところで、ここに来ると癒されると仲間が感じられるところとして、存在したいと願っている。

余暇は生活を豊かにする大切な要素。これからも「ゆめ・やりたいこと実現センター」とともに明日への活力に繋がるような生涯学習に取り組んでいきたいと思っている。



共に創り合う「学び」に感動！

一般社団法人共助のまちづくり協会理事長 島 久美子

私たち「一般社団法人共助のまちづくり協会」は、2012年より障害のある人たちが、アートの表現を楽しむ文化芸術活動に取り組んでいます。

ゆめ・やりたいこと実現センターの事業では、私たちがこの数年間で蓄積してきた人的ネットワークやワークショップの経験を生かし「やりたいこと講座」の企画にかかわりました。

書道アート・二胡の演奏・絵画アート・ひきこもり経験者のトーク・和歌山城を題材にした考古学の話・俳句ワークショップ・新聞紙アートなど多彩なテーマで11講座200名の皆さんと学びの時間を共にすることができました。どの講座でも、参加者の「学びへの意欲」に圧倒され、「学びの喜び」を目の当たりにしました。講座を重ねるたびに本事業の意義を強く感じるばかりでした。また講座では地域で活動されている方々が、快く講師を務めて下さいましたが「障害のある人たちのための講座は初めて」とのことでした。

講座終了後共通して出された声は「純粹に学ぼうとする参加者の姿勢に感動した」という点でした。「学ぶ側が必ずしも何かを受けるだけではなく、学習を提供する側の講師に大切な気づきを与える存在」であることを実感しました。

「知らなかったことを知る喜び」「できなかったことができるようになる喜び」は、人として基本的な幸福感につながります。本事業をとおり「やりたいこと講座」は障害のあるなしを超えて、地域の人たちがつながり、共にそれぞれの幸せを追究する取り組みであると確信することができました。

障害者の「学びの場」を、地域でつくる可能性は無限です。人的資源の拡充や学びのスキルアップに尽力し、ひとりでも多くの皆さんと「学ぶ喜び」を共有できるよう行動したいと思っています。

青年のつどいから ～ゆっくりじっくり～

自立訓練事業シャイン 小林 正尚

「夕刻のたまり場」は仕事を終えてそのまま帰宅するのではなく仲間と集い、仕事のことやたわいのない話をする場として定着してきている。日頃なかなか自分の思いを人に伝えられないことでも、自然と話ができる環境が本当に大切だと思います。

自立訓練シャインの修了生が毎週楽しみにしながら利用しています。シャイン通所当初は「こうしたらどう？」「あれできるかも？」などとアドバイスをしても理由をつけて取り組もうとしなかった。しかし、「夕刻のたまり場」について「こんな場所があるよ。行ってみたら」と声をかけると、「うーん？」と返事がありました。そして後日、「たまり場に行ってきたよ」と自分から報告してくれました。余程良かったのだろうと推測できました。それ以来「今日は行って来るわ」と楽しそうです。修了し、今年度に入ってからシャイン利用者も誘って利用しています。

誰かに話を聞いてもらう、相談できる人がいる、気を遣わずにその場に居ることができるという、このような余暇を過ごす居場所は必要だと感じています。そして将来的には仲間とさらに外に向かう活動につながればよいと思います。

講座においては、いろんなことを見聞、体験することで、今まで自分が知らなかったことを学び、興味関心を持ち、楽しく活動が出来ているようです。多分経験の少ない彼らが可能性を広げられる機会であることは間違いないと思います。

自己選択、自己決定、自己解放、自己肯定感を育み、そこから達成感、自信につながっていく。時間をかけてゆっくり、じっくり人生を謳歌できればと思います。

ゆめ・やりたいこと実現センターに参加して

スペシャルオリンピックス日本・和歌山 大田 昌彦

私の所属するスペシャルオリンピックス日本・和歌山はスポーツを通して、障害者の社会参加と自己実現をめざす団体です。2018年度のゆめ・やりたいこと実現センターの活動の中で、「金剛山登山&BBQ」と「桃源郷マラソン・ランニング・クリニック（3回実施）」という2種類のスポーツ活動に取り組みさせていただきました。それぞれに充実した活動でしたが、ランニング・クリニックは「スポーツが苦手でも、桃源郷ハーフマラソンを走りたい」という他の活動をしておられる方の声から取り組みが実現したことに意義を感じます。参加者募集は、障害の有無に関係なく走ってみたいという方にしました。スペシャルオリンピックスが進めている、障害の有無に関係なく共にスポーツを楽しむという「ユニファイド」という立場で考えたからです。活動を開始すると、初めて顔を合わす者同士、特に障害者に接する機会のない方と障害のある方との間に少なからず壁がありました。どう接していいのかわからないという感じだったのででしょうか。活動を進めて行くと慣れてきたのもあったのか「なかなかやるな」「私よりもすごい」と素直にお互いを認め合い、個人を尊重して接する姿が多く見られ、共に汗をかくことの素晴らしさを感じました。練習後に自然に声をかけ合う姿に感動もし、「やった！」という思いも持っていました。

支援学校の進路指導担当として勤務していた時に、卒業生から受ける相談の一つに昼休みや就業後、休日に何もすることがないということがありました。働くことや生活を続けていく上で、気分転換やたわいのない世間話、愚痴の一つもこぼしたいものです。それが、明日への活力にもつながっていくと考えています。

そんな現状に遭遇し、私だけではなく様々な方々が障害者の学校卒業後の余暇活動に取り組みされてこられました。しかし、個人の頑張りでも運営していても横のつながりは乏しかったのではないのでしょうか。

今回、ゆめ・やりたいこと実現センターの活動に参加させていただき、自分の知らない活動をされている方の何と多いことかと驚かされ、この取り組みが必要不可欠であることを再認識しました。

私にとって、ゆめ・やりたいこと実現センターでの一番の収穫は、様々な活動をされている方々との横の繋がりができたこと、そして他の活動での様子をうかがえたことです。



2017年6月に紀の川市地域おこし協力隊として紀の川市に着任以降、「自分の挑戦したいことをなんでもやってみよう！」という気持ちで市民との交流活動などを中心に行っております。そんな中、偶然にもゆめ・やりたいこと実現センターの事業が始まるということで、新しい事に挑戦し自分の可能性を広げながら、紀の川市民が豊かになるよう貢献したいと思い、この事業のお手伝いをさせていただくことにしました。

夕刻のたまり場には、出来る限り参加させていただきました。一番印象に残った出来事は、ある提案をしたところ、「それ嫌いなんですよ。」とはっきり言われたことがありました。信頼関係があるからこそ正直になれる。上下関係が出来上がっていたら、ストレートに意見を言ってくれなかったかもしれません。誰でも参加できて、ゆったりと安心して過ごせる夕刻のたまり場は、参加者全員にとって大切な居場所になったと思います。

そして、さまざまな講座運営やお手伝いもさせていただきました。私が紀の川市民と一緒に活動するなかで生まれた「きのかわ空き家活用チーム」が主催した防災グッズづくり、地元農家さんの落ちてしまった売り物にならないみかんをドライフルーツにしリースに飾りつけた「フルーツクリスマスリースづくり」、そして、スペシャルオリンピックス日本・和歌山との共催で「桃源郷マラソン・ランニング・クリニック」(紀の川市で行われたぶる博3にも参加)など、たくさんの方々が交流する講座を開催しました。日々行っている仕事や活動をこの事業の講座として生かし、人と人が繋がったことは本当にありがたく、そして、参加された方が楽しく笑顔で過ごされ、友情の輪をつくるきっかけに貢献できたのは、貴重な嬉しい経験となりました。今後もそれぞれの人生が豊かになるよう、時には熱く意見交換をしたり、楽しんだり、大笑いしたりする時間をいっぱい共有していきたいです。



こんなことができますアンケート

地域にはすばらしい人材がいっぱい！そして、生涯学習のサポーターもいっぱい！この人たちから「こんなことができます！」を募り人材バンクに登録していただいています。そして、「こんなことした！」という障害のある人たちをつなげて“教える”ではなく“一緒に”学び・楽しめます。

まわりの人たちから届いた『こんなことができますアンケート』の中から、2018年度は、みなさんから希望のあったちぎり絵、フルーツクリスマスリースづくり、絵手紙等を講座として企画・実施しました。

<手芸・制作>

簡単手芸、ちぎり絵、手織り、羊毛フェルトで動物、空き缶リメイク、フルーツクリスマスリースづくり、さをり織り、雑貨・アクセサリ作り（明日が楽しくなるようなものを作る）、簡単ガーゼマフラーづくり、かご網、紙すき（道具があるので使って下さい）、名刺・ロゴのデザイン、陶芸（シーサーや皿など）絵手紙、100均利用でリメイク（家のリフォーム）、フルーツカッティング、フルーツ酵素ジュース作り、習字、

<花・植物・生き物>

華道、盆栽・苔づくり、昆虫を育てる（カマキリ・てんとう虫他）、寄せ植え、

<料理>

オリジナルドライカレー、旬の物を使っておやつやごはんづくり、外国の人とその国の料理づくり

<ゲーム・ネット関係>

ボードゲーム（将棋・オセロ・チェスなど）、カードゲーム制作（シンプルなルールでありながら戦術的に富んだもの）、ホームページ（WEBサイト）制作、SNS投稿（ゲーム実況含む）動画作成

<本>

小説・豆本づくり、読み聞かせ（ハンドパペットの白ネズミのタビーを使って）、朗読・話し方指導、朗読（マンガを声に出して読む）、本と音楽を楽しむ（「紹介し合う会」をいつか開きたい）

<外国>

簡単英会話、地域の外国人（タイ人・ベトナム人・台湾人）と交流

<スポーツアウトドア等>

ウォーキング、ベリーダンス、ダンス心理学（メンタル心理士資格有）

<鑑賞>

テレビで一緒にサッカー観戦、外国映画鑑賞、モールアート

<体験>

着物着付け（車いすの方の着付けもできます）、茶道、フルーツ狩り体験、手話（日常会話・自己紹介など）、写真・カメラ撮影

<その他>

座右の銘を考える（好きな言葉を一緒に考える）、『ほめる』（『ほめる』を使って人生HAPPY）、ダジャレ&親父ギャグ活用法効果、猫の気持ちわかります

1年目の活動を終えて

社会福祉法人一麦会理事長 田中 秀樹

昨年1年間文部科学省の「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」に出席させていただきました。全国で実践されている有能な方々、文部科学省の優秀なみなさんと共に、「障害者の生涯学習の推進方策について」として報告書がまとめられました。

全国の地域の実践の報告を聞くことができ、素晴らしい実践が地道な努力を積み上げて続けられていることを知ることができ、この国の底力がわかりました。また、各障害者団体からのヒヤリングで生涯学習の機会の拡大や団体での取り組みの様子や生涯学習への期待のとても大きいということがわかりました。

障害の種別、障害の程度、幼児期からの環境、学校教育での経験、家庭環境、都会と地方、社会資源の充実など困難なことをあげればきりがなく、幅広い委員の意見が集約され、この国の障害者の生涯学習についての有識者会議の提言がまとめられたことは画期的なことです。この国の指針がまとめられたわけですから、これからがどのように進むのか、私たちもどう関わってすすめていけるかが楽しみです。

今回、生涯学習について改めて学び考えさせてもらいました。人は単に「生きる」「息る」のではなく、健康で文化的に豊かに賢く生きる、それが地域を支える力であり、民主国家の礎へとつながっていきます。そのためには障害のあるなし、年齢に関係なく、そして地域の格差なく機会に恵まれることが必要です。そのことは日本国憲法や障害者権利条約ですでに規定されているということを改めて理解することができました。

ある時に県民文化会館へ行く機会があり、ロビーで劇や音楽会などのチラシを見てビックリしました。実にたくさんの企画があり自由に参加することが可能です。こんな企画に障害をもつ人たちが自由に参加できたらと思います。それを実現できるようになるためには、いくつものハードルがあります。それをひとつひとつ問題を一緒に考え越えていくために伴走する人や拠点が必要です。

モデル事業で「夕刻のたまり場」という取り組みがあります。仕事の後にホッと立ち寄れる場所です。決まった場所に一緒に楽しめる仲間がそこに行けば居る、そこから何かが始まる、そんな場所がとても大切だと感じました。いろんな人が集まり化学反応(楽しさを知る)を起こして取り組みが広がっていきます。

地域には公民館、市民センター、体育館、プール、図書館など公的な資源がどの地域にも存在します。そこが自由に利用できたり、障害者向けの企画がひとつでも実現できれば、どれだけ影響があるのかと考えるとワクワクします。

報告書での障害者の生涯学習についての方向性が共有され、それぞれが努力されていくと思います。その第一歩が歩み出しています。解決すべき課題をひとつひとつ解決していく努力と生涯学習への参加への広がりとは一体のものです。今回の麦の郷がモデル事業をすすめていくことで、すでに取り組みされている活動とのつながりが深まり、そして何よりも障害者の生涯学習への関心の広がり、協力者、同行者の多さに驚きました。こうした地域でのつながりや障害者自身の活動が広がり、それを支える公的、民間を問わず拠点が増えていき、解決すべき問題をひとつひとつ乗り越えていくことを願います。

文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」

社会福祉法人一麦会 麦の郷 ゆめ・やりたいこと実現センター

〒649-6513 和歌山県紀の川市粉河 853-3

TEL/FAX 0736-60-8233

Mail muginosato-fujimoto@hotmail.co.jp

発行：2019年6月

印刷：麦の郷印刷
